

主な医薬品とその作用（40問）

【問61】 次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

9錠中	
クレマスチンフマル酸塩	1.34 mg
ベラドンナ総アルカロイド	0.3 mg
ブロムヘキシソール塩酸塩	12 mg
トラネキサム酸	420 mg
アセトアミノフェン	900 mg
d1-メチルエフェドリン塩酸塩	60 mg
ジヒドロコデインリン酸塩	24 mg
無水カフェイン	60 mg
ベンフォチアミン（ビタミンB ₁ 誘導体）	24 mg

このかぜ薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a クレマスチンフマル酸塩は、発熱を鎮め、痛みを和らげる目的で配合されている。
- b ベラドンナ総アルカロイドは、抗コリン作用によって鼻汁分泌を抑えることを目的として配合されている。
- c ブロムヘキシソール塩酸塩は、鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげることを目的として配合されている。
- d トラネキサム酸は、炎症の発生を抑え、腫れを和らげることを目的として配合されているが、凝固した血液を溶解されにくくする働きもある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問6 2】 漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 葛根湯かっこんとうは、体力中等度以上のものの感冒の初期（汗をかいていないもの）、鼻かぜ、鼻炎、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛みに適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- b 小柴胡湯しょうさいこうとうは、インターフェロン製剤で治療を受けている人では、間質性肺炎の副作用が現れるおそれが高まる。
- c 桂枝湯けいしとうは、体力虚弱で、汗が出るもののかぜの初期に適すとされる。
- d 小青竜湯しょうせいりゅうとうは、体力中等度またはやや虚弱で、うすい水様の痰たんを伴う咳せきや鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息ぜん、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	正	正	正	正
5	誤	誤	正	誤

【問6 3】 次の表は、ある解熱鎮痛薬に含まれている成分の一覧である。

1錠中	
エテンザミド	200 mg
アセトアミノフェン	80 mg
アリルイソプロピルアセチル尿素	30 mg
無水カフェイン	40 mg

この解熱鎮痛薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a エテンザミドは、痛みの発生を抑える働きが作用の中心となっている他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みが神経を伝わっていくのを抑える働きが強い。
- b アセトアミノフェンが配合された坐薬ざと内服薬とは影響し合わないので、アセトアミノフェンが配合された坐薬を併用してもよい。
- c アリルイソプロピルアセチル尿素は、反復して摂取すると依存を生じることが知られており、本来の目的から逸脱した使用（乱用）がなされることがある。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	正	正	誤

【問64】 解熱鎮痛薬及び解熱鎮痛薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アスピリン喘息は、アスピリン特有の副作用であり、他の解熱鎮痛成分では発現しない。
- b イブプロフェンは、胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎またはクローン氏病の既往歴がある人において、それら疾患の再発を招くおそれがある。
- c サリチルアミドは、インフルエンザにかかっている15歳未満の小児に対しては使用を避ける必要がある。
- d 現在では、サザピリンが一般用医薬品で唯一のピリン系解熱鎮痛成分となっている。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問65】 眠気を促す薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品の酸棗仁湯は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているため、症状の改善がみられなくても1ヶ月継続して服用する必要がある。
- b 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害は、抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬の適用対象である。
- c 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、慢性的に不眠症状がある人や、医療機関において不眠症の診断を受けている人を対象とするものではない。
- d 加味帰脾湯は、体力中等度以下で、心身が疲れ、血色が悪く、ときに熱感を伴うものの貧血、不眠症、精神不安、神経症に適すとされる。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問66】 カフェインに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 摂取されたカフェインは乳汁中へ移行しないため、授乳中の女性はカフェインの摂取量に注意する必要はない。
- 2 一般用医薬品の眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量は、カフェインとして500mg、1日摂取量は1500mgが上限とされている。
- 3 胃液の分泌を減少させる作用があるため、胃腸障害（食欲不振、悪心・嘔吐）が現れることがある。
- 4 脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感を抑える効果がある。
- 5 腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進作用があり、尿量の減少をもたらす。

【問67】 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a スコポラミン臭化水素酸塩は、乗物酔い防止に古くから用いられている抗コリン成分で、消化管からよく吸収され、他の抗コリン成分と比べて脳内に移行しにくい。
- b ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- c プロメタジンテオクル酸塩は、15歳未満の小児では使用を避ける必要がある。
- d メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く持続時間が短い。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問68】 小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児鎮静薬は、夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状を鎮めるほか、小児における虚弱体質、消化不良などの改善を目的とする医薬品である。
- b 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていないため、生後1ヶ月の乳児に使用しても問題はない。
- c 主な漢方処方製剤としては、桂枝加竜骨牡蛎湯、抑肝散、小建中湯がある。
- d ジンコウは、ウシ科のサイカレイヨウ等の角を基原とする生薬で、緊張や興奮を鎮める作用等を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	誤	誤	正

【問69】 マオウに関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 気管支拡張のほか、発汗促進、尿量増加（利尿）の作用も期待される。
- b 心臓病、高血圧、糖尿病または甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状を悪化させるおそれがある。
- c 中枢神経系に対する作用が他の気管支拡張成分に比べ弱く、依存性がない。
- d 副作用として、排尿困難が現れることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	正	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

【問70】 次の表は、ある鎮咳去痰薬に含まれている成分の一覧である。

12錠中	
L-カルボシステイン	750 mg
ジヒドロコデインリン酸塩	30 mg
d 1-メチルエフェドリン塩酸塩	75 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	12 mg

この鎮咳去痰薬を販売するにあたって確認すべき事項の説明として、正しいものの組み合わせはどれか。

- a アドレナリン作動成分であるd 1-メチルエフェドリン塩酸塩が含まれているので、使用者が心臓病、高血圧、糖尿病または甲状腺機能障害の診断を受けていないか確認する。
- b 中枢神経系を興奮させる作用を示すL-カルボシステインが含まれており、てんかんの診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがあるため、使用者がてんかんの診断を受けていないか確認する。
- c 痰の切れを良くする作用を示すクロルフェニラミンマレイン酸塩が含まれているが、フィブリノゲンやフィブリンを分解する作用もあるため、使用者が血液凝固異常のある人でないか確認する。
- d 麻薬性鎮咳成分であるジヒドロコデインリン酸塩が含まれており、薬物依存につながるおそれがあるため、長期連用や大量摂取をしていないか確認する。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 7 1】 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 噴射式の液剤では、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。
- 2 含嗽薬の使用後すぐに食事を摂ると、殺菌消毒効果が薄れやすい。
- 3 含嗽薬は、水で用時希釈または溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。
- 4 トローチ剤やドロップ剤は、有効成分が早く体内に行き渡るよう、噛み砕いて飲み込んで使用する。
- 5 口腔咽喉薬には、殺菌消毒成分が配合されている製品はあるが、鎮咳成分が配合された製品はない。

【問 7 2】 強心薬及び強心薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 1日用量中センソ 1 mgを超えて含有する医薬品は劇薬に指定されている。
- b ジャコウは、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。
- c 苓桂朮甘湯は、強心作用が期待される生薬を含む。
- d 強心薬は、疲労やストレス等による軽度の心臓の働きの乱れについて、心臓の働きを整えて、動悸や息切れ等の症状の改善を目的とする医薬品である。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	正

【問 7 3】 高コレステロール改善薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンEは、コレステロールから過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされる。
- b リボフラビンを摂取後、尿が黄色くなるのは、副作用であり、直ちに服用を中止しなければならない。
- c パンテチンには、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える働きがあるとされる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	正

【問 7 4】 貧血用薬及び貧血用薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 銅はヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つ。
- b コバルトは赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンB₁₂の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- c ヘモグロビン産生に必要なビタミンB₆が配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問 7 5】 循環器用薬及び循環器用薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a コウカには、末梢の血行を促して鬱血を除く作用があるとされる。
- b ヘプロニカートは、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、別名コエンザイムQ10とも呼ばれる。
- c ルチンは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- d 三黄瀉心湯さんおうしやしんとうは、体力中等度以下で、顔色が悪くて疲れやすく、胃腸障害のないものの高血圧に伴う随伴症状（のぼせ、肩こり、耳鳴り、頭重）に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	誤

【問 7 6】 婦人薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a エチニルエストラジオールは、妊娠中でも安全に使用することができる。
- b 女性ホルモン成分の長期連用により血栓症を生じるおそれがある。
- c コウブシは、鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して配合されている場合がある。
- d トウキは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壯、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

【問 7 7】 内服アレルギー用薬及び内服アレルギー用薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ジフェンヒドラミンサリチル酸塩は、吸収されたジフェンヒドラミンの一部が乳汁に移行して乳児に昏睡を生じるおそれがある。
- b メキタジンは、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）、肝機能障害、血小板減少を生じることがある。
- c アレルギー症状が現れる前から予防的にアレルギー用薬を使用することを、減感作療法という。
- d モノアミン酸化酵素阻害剤を服用している人が、プソイドエフェドリン塩酸塩を服用すると、プソイドエフェドリンが急速に代謝され、副作用が現れやすくなる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d)

【問 7 8】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以上で、濃い鼻汁が出て、ときに熱感を伴うものの鼻づまり、慢性鼻炎、蓄膿症^{のう}に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸虚弱で冷え症の人では、胃部不快感等の副作用が現れやすいなど、不向きとされている。

- 1 芍薬甘草湯 しゃくやくかんぞうとう
- 2 半夏厚朴湯 はんげこうぼくとう
- 3 大黃牡丹皮湯 だいうぼたんぴとう
- 4 温清飲 うんせいいん
- 5 辛夷清肺湯 しんいせいはいとう

【問79】 鼻に用いる薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ケトチフェンは、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止することを目的として配合される。
- b リドカイン塩酸塩は、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒み^{かゆ}を抑えることを目的として配合されている場合がある。
- c クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示し、花粉、ハウスダスト（室内塵^{じん}）等による鼻アレルギー症状の緩和を目的として配合される。
- d ナファゾリン塩酸塩は、交感神経系を刺激して鼻粘膜を通っている血管を収縮させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として配合される。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	正

【問80】 尿糖・尿タンパク検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 尿中のタンパク値に異常を生じる要因については、尿路に異常が生じたことによるものとして腎炎やネフローゼがある。
- b 尿糖値に異常を生じる要因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿等のように高血糖を伴わない場合もある。
- c 通常、尿は弱酸性であるが、食事やその他の影響で中性～弱アルカリ性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	正
3	誤	正	正
4	正	正	誤

【問 8 1】 胃に作用する薬に含まれる成分と、その主な配合目的の関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

	成分		主な配合目的
a	ピレンゼピン塩酸塩	—	胃液分泌抑制作用
b	グリチルリチン酸二カリウム	—	制酸作用
c	セトラキサート塩酸塩	—	消泡作用
d	アルジオキサ	—	胃粘膜保護・修復作用

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

【問 8 2】 胃腸に作用する薬に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 制酸薬は、胃内容物の刺激によって促進される胃液分泌から胃粘膜を保護することを目的として、食後に服用することとなっているものが多い。
- b 制酸薬は、吐きけ（二日酔い・悪酔いのむかつき・嘔気）、嘔吐等の症状を予防するものではない。
- c 制酸成分を主体とする胃腸薬は、酸度の高い食品と一緒に使用すると胃酸に対する中和作用が低下することが考えられるため、炭酸飲料での服用は適当でない。
- d 一般用医薬品は、症状に合った成分のみが配合された製品が選択されることが望ましいため、制酸、胃粘膜保護、健胃、消化、整腸等、それぞれの作用を目的とする成分を組み合わせた製品は販売されていない。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

【問 8 3】 胃腸鎮痛鎮痙薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 抗コリン成分による作用は、消化管に限定されないため、散瞳による目のかすみや異常な眩しさ、顔のほてり、口渇、排尿困難等の副作用が現れることがある。
- b ブチルスコポラミン臭化物は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。
- c 抗コリン成分は、胃痛、腹痛、さしこみ（疝痛、癩）を鎮めるが、胃酸過多や胸やけに対しては効果が期待できない。
- d ロートエキスは、吸収された成分の一部が母乳中に移行して、その母乳を飲んだ乳児の脈が遅くなるおそれがある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

【問 8 4】 胃腸鎮痛鎮痙薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a パパペリン塩酸塩は、抗コリン成分と異なり自律神経系を介した作用がないため、眼圧を上昇させる作用を示さない。
- b アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児への使用は避ける必要がある。
- c オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もある。
- d エンゴサクやシャクヤクは、鎮痛鎮痙作用を期待して配合されている場合がある。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

【問 8 5】 浣腸薬及び浣腸薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 直腸内で徐々に分解して微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して、グリセリンが注入剤の配合成分として、用いられる。
- b グリセリンが配合された浣腸薬が、肛門や直腸の粘膜に損傷があり出血しているときに使用されると、グリセリンが傷口から血管内に入って、赤血球の破壊（溶血）を引き起こすおそれがある。
- c 直腸の急激な動きに刺激されて流産・早産を誘発するおそれがあるため、妊婦または妊娠していると思われる女性では使用を避けるべきである。
- d 浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して、炭酸水素ナトリウムが用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問 8 6】 駆虫薬及び駆虫薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 駆除した虫体や腸管内に残留する駆虫成分の排出を促すため、ヒマシ油が併用される。
- 2 カイニン酸は、蟻虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされる。
- 3 サントニンは、服用後、一時的に物が黄色く見えたり、耳鳴り、口渇が現れることがある。
- 4 パモ酸ピルビニウムは、空腹時に服用するよりも、脂質分の多い食事の後に服用した方が効果的である。

【問 8 7】 外用痔疾用薬に含まれる成分と、その主な配合目的に関する次の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

成分	主な配合目的
1 メチルエフェドリン塩酸塩	— 抗ヒスタミン成分による鎮痒作用 ^{よう}
2 ヒドロコルチゾン酢酸エステル	— 抗炎症作用
3 ビタミンA	— 末梢血管の血行を改善する作用
4 ジフェンヒドラミン塩酸塩	— 収斂保護止血作用 ^{れん}
5 タンニン酸	— 局所刺激成分による鎮痒作用 ^{よう}

【問 8 8】 泌尿器に用いられる漢方処方製剤に関する次の記述について、() の中に入れるべき製剤の正しい組み合わせはどれか。

(a) は、体力に関わらず、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされる。

(b) は、体力中等度以上で、下腹部に熱感や痛みがあるものの排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おりもの）、頻尿に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

(c) は、体力中等度以下で、疲れやすくて尿量減少または多尿で、ときに手足のほてり、口渇があるものの排尿困難、残尿感、頻尿、むくみ、痒み、夜尿症、しびれに適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、腹痛、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

	a	b	c
1	ろくみがん 六味丸	ちよれいとう 猪苓湯	りゅうたんしやかんとう 竜胆瀉肝湯
2	ちよれいとう 猪苓湯	りゅうたんしやかんとう 竜胆瀉肝湯	ろくみがん 六味丸
3	りゅうたんしやかんとう 竜胆瀉肝湯	ちよれいとう 猪苓湯	ろくみがん 六味丸
4	ろくみがん 六味丸	りゅうたんしやかんとう 竜胆瀉肝湯	ちよれいとう 猪苓湯

【問 8 9】 外用の歯痛薬に含まれる成分と、その主な配合目的に関する次の組み合わせの正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	成分		主な配合目的
a	フェノール	—	局所麻酔作用
b	サンシシ	—	抗炎症作用
c	ジブカイン塩酸塩	—	殺菌消毒作用
d	メントール	—	鎮痛・鎮痒 ^{よう} 作用

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	正	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	正	正
5	正	正	誤	誤

【問 9 0】 次の表は、ある止瀉薬^{しゃ}に含まれている成分の一覧である。

2 カプセル中	
アクリノール水和物	30 mg
ベルベリン塩化物水和物	70 mg
次硝酸ビスマス	200 mg
ロートエキス	20 mg
エンゴサク末	70 mg
カンゾウ末	80 mg

この止瀉薬^{しゃ}を購入しようとしている女性に対する説明の趣旨の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ベルベリン塩化物水和物は、収斂^{れん}作用のほか、腸内で発生した有毒物質を分解する作用も持つ成分です。
- b 母乳を与える女性では使用を避けるか、または使用期間中の授乳を避けることが必要です。
- c 緑内障の方でも安心して服用できます。

	a	b	c
1	誤	誤	誤
2	誤	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	正	正	誤

【問 9 1】 眼科用薬に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 コンタクトレンズ装着液について、配合成分としてあらかじめ定められた範囲内の成分のみを含む等の基準にあてはまる製品は、医薬部外品として認められている。
- 2 眼科用薬は、目の疲れやかすみ、痒みなどの症状の緩和を目的として、結膜囊に適用する外用薬である。
- 3 1回使い切りタイプとして防腐剤を含まない点眼薬には、ソフトコンタクトレンズ装着時にも使用できるものがある。
- 4 アドレナリン作動成分を含む一般用医薬品の点眼薬は、緑内障に効果的である。
- 5 点眼の際に容器の先端を眼瞼（まぶた）や睫毛（まつげ）に触れないように注意しながら1滴ずつ正確に点眼する。

【問 9 2】 眼科用薬に含まれる成分と、その主な配合目的に関する次の組み合わせのうち、正しいものはどれか。

成分	主な配合目的
1 プラノプロフェン	— 視力調整等の反応を改善する作用
2 ヒアルロン酸ナトリウム	— 肥満細胞からのヒスタミン遊離を抑える作用
3 ネオスチグミンメチル硫酸塩	— 目の調節機能を改善する作用
4 ホウ酸	— 炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用

【問 9 3】 外用薬及び外用薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ステロイド性抗炎症成分は、広範囲に生じた皮膚症状や、慢性の湿疹・皮膚炎を対象としている。
- b インドメタシン含有の貼付剤を使用すると、適用部位の皮膚に、腫れ、ヒリヒリ感、熱感、乾燥感が現れることがある。
- c 皮下の知覚神経に麻痺を起こさせる成分として、アンモニアが主に虫さされによる痒みに用いられるが、皮膚刺激性が強いため、粘膜や目の周りへの使用は避ける必要がある。
- d 打撲や捻挫の急性の腫れに対しては、温感刺激成分が配合された外用鎮痛薬が適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問94】 みずむし及び抗真菌成分に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 湿疹に抗真菌作用を有する成分を使用すると、かえって湿疹の悪化を招くことがある。
- b みずむしに用いられる液剤は、軟膏に比べて有効成分の浸透性が低く、患部に対する刺激が弱い。
- c オキシコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- d ピロールニトリンは、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (c、d)

【問95】 禁煙補助剤に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 咀嚼剤を大量に使用すると禁煙達成が早まる。
- 2 ニコチン含有製剤を併用することが望ましい。
- 3 禁煙補助剤の種類には咀嚼剤、経口液剤及び軟膏剤がある。
- 4 妊婦、母乳を与える女性でも使用を避ける必要はない。
- 5 うつ病と診断されたことのある人は使用を避ける必要がある。

【問96】 滋養強壮保健薬及び滋養強壮保健薬に含まれる配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ビタミンB₆は、タンパク質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の健康維持、神経機能の維持に重要な栄養素である。
- b ヨクイニン¹は、クロウメモドキ科のナツメの果実を基原とする生薬で、肌荒れやいぼに用いられる。
- c ビタミンB₁主薬製剤は、リボフラビン酪酸エステル、フラビンアデニンジヌクレオチドナトリウムが主薬として配合された製剤で、口角炎、口唇炎に用いられる。
- d ビタミンE主薬製剤は、トコフェロール、トコフェロールコハク酸エステルが主薬として配合された製剤で、末梢血管障害による肩・首筋のこりに用いられる。

- | | a | b | c | d |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2 | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5 | 正 | 誤 | 誤 | 正 |

【問 9 7】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。

- 1 防已黄耆湯
ぼういおうぎとう
- 2 大黄甘草湯
だいうかんそうとう
- 3 乙字湯
おつじとう
- 4 安中散
あんちゅうさん

【問 9 8】 次の表は、漢方処方製剤A及びBに含まれている成分の一覧である。

A（15錠中）		B（6丸中）	
ダイオウ末	1,000 mg	ゴオウ	100 mg
センナ末	300 mg	ジャコウ	1 mg
オウゴン末	600 mg	センソ	4 mg
カンゾウ末	600 mg	サフラン	30 mg
カノコソウ末	400 mg	ニンジン	450 mg

これらの漢方処方製剤に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ダイオウが配合されたAは、瀉下作用の増強を生じて、腹痛、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすくなるため、瀉下薬の併用に注意する必要がある。
- 2 Aに含まれるカンゾウは、グリチルリチン酸による抗炎症作用のほか、気道粘膜からの分泌を促す等の作用も期待される。
- 3 センソが配合されたBは、口中で噛み砕くと舌等が麻痺することがあるため、噛まずに服用することとされている。
- 4 Bに含まれるゴオウは、神経系の興奮や副腎皮質の機能亢進等の作用により、外界からのストレス刺激に対する抵抗力や新陳代謝を高める機能がある。

【問 9 9】 消毒薬及び消毒薬に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 消毒薬が微生物を死滅させる仕組み及び効果は、殺菌消毒成分の種類、濃度、温度、時間、消毒対象物の汚染度、微生物の種類や状態によって異なる。
- 2 消毒薬の溶液中で生存、増殖する微生物はいない。
- 3 エタノールのウイルスに対する不活性効果は、イソプロパノールよりも低い。
- 4 酸を含有する消毒薬が目に入った場合は、アルカリで中和することが適切である。

【問100】 殺虫剤に含まれる次の成分のうち、アセチルコリンエステラーゼと不可逆的に結合し、その働きを阻害することによって殺虫作用を示すものはどれか。

- 1 メトキサジアゾン
- 2 ペルメトリン
- 3 ジクロルボス
- 4 メトプレン
- 5 プロポクスル

医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 添付文書は、開封時に一度目を通せば十分というものでなく、実際に使用する人やその時の状態等によって留意されるべき事項が異なってくるため、必要なときにいつでも取り出して読むことができるように保管する必要がある。
- b 販売時に専門家から直接情報提供を受けた購入者以外の家族等が、その医薬品を使用する際には、添付文書に目を通し、使用上の注意等に留意して適正に使用されることが特に重要である。
- c 添付文書の内容は、1年に一度定期的に改訂することとされ、改訂年月を記載するとともに改訂された箇所を明示することとされている。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	誤	正	誤
5	正	正	誤

【問102】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 記載事項である「製品の特徴」は、医薬品を使用する人に、その製品の概要を分かりやすく説明することを目的として記載されている。
- b 薬効名とは、その医薬品の薬効または性質（例えば、主たる有効成分など）が簡潔な分かりやすい表現で示されたもので、販売名に薬効名が含まれているような場合でも（例えば、「〇〇〇胃腸薬」など）、薬効名は必ず記載しなければならない。
- c 「使用上の注意」は、「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」から構成され、枠囲い、文字の色やポイントを替えるなど、他の記載事項と比べて目立つように記載されている。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	正	正	誤
5	正	誤	誤

【問103】 一般用医薬品の添付文書に記載される「使用上の注意」に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般用検査薬では、その検査結果のみで確定診断はできないので、判定が陽性であれば速やかに医師の診断を受ける旨が記載されている。
- 2 「してはいけないこと」の項には、守らないと症状が悪化する事項、副作用または事故等が起りやすくなる事項について記載されている。
- 3 「相談すること」の項に「妊婦又は妊娠していると思われる人」と記載されている医薬品は、ヒトにおける具体的な悪影響が判明しているものに限定されている。
- 4 「次の人は使用（服用）しないこと」の項には、アレルギーの既往歴、症状や状態、基礎疾患等からみて重篤な副作用を生じる危険性が特に高いため、使用を避けるべき人について、生活者が自らの判断で認識できるよう記載されている。

【問104】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 「使用上の注意」の記載における「高齢者」とは、およその目安として60歳以上を指す。
- b 重篤な副作用が現れた場合については、ただちに医師の診療を受けることの旨の記載があるが、一般用医薬品で入院相当以上の健康被害につながることはない。
- c 漢方処方製剤では、継続して使用することにより効果が得られるとされているものが多いが、長期連用する場合には、専門家に相談する旨が記載されている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	誤	誤
4	正	正	正
5	誤	誤	正

【問105】 一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 錠剤、カプセル剤、散剤では、取り出したときに室温との急な温度差で湿気を帯びるおそれがあるため、冷蔵庫内での保管は不適當である。
- 2 医薬品を別の容器へ移し替えることは、誤用の原因になったり、適切な品質が保持できなくなったりするおそれがあるため、不適當である。
- 3 点眼薬では、複数の使用者間で使い回されると、別の使用者に感染するおそれがあるため、他の人と共用しないことの旨が記載されている。
- 4 シロップ剤は、変質しやすいため、適切な保管がなされないと化学変化や雑菌の繁殖等を生じることがあり、開封後は冷凍庫内に保管されるのが望ましい。

【問106】 一般用医薬品の製品表示に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品によっては添付文書の形でなく、医薬品医療機器等法第52条の規定に基づく「用法、用量その他使用及び取扱い上必要な注意」等の記載を、外箱等に行っている場合がある。
- 2 副作用や事故等が起きる危険性を回避するため、1回服用量中0.1 mLを超えるアルコールを含有する内服液剤（滋養強壯を目的とするもの）については、アルコールを含有する旨及びその分量が記載されている。
- 3 購入者によっては、購入後すぐ開封せずにそのまま保管する場合や持ち歩く場合があるため、添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、その容器や包装にも、保管に関する注意事項が記載されている。
- 4 適切な保存条件の下で製造後3年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品であっても、外箱に使用期限を表示することが医薬品医療機器等法で定められている。

【問107】 医薬品等に係る安全性情報に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 「緊急安全性情報」は、医薬品または医療機器について、緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合などに作成される。
- 2 「安全性速報」は、医薬品または医療機器について、一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な注意喚起が必要な場合などに作成される。
- 3 「安全性速報」は、A4サイズの黄色地の印刷物で、イエローレターと呼ばれる。
- 4 厚生労働省は、医薬品、医療機器等による重要な副作用、不具合等に関する情報を原則、毎月とりまとめ、「医薬品・医療機器等安全性情報」として、広く医薬関係者向けに情報提供を行っている。

【問108】 （独）医薬品医療機器総合機構の情報提供に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品医療機器情報提供ホームページには、厚生労働省が製造販売業者等に指示した緊急安全性情報や、「使用上の注意」の改訂情報が掲載されている。
- b 医薬品医療機器情報提供ホームページには、製造販売業者等や医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情報が掲載されている。
- c 医薬品医療機器情報配信サービス（PMDA メディナビ）は、医薬品や医療機器の安全性に関する特に重要な情報が発出されたときに、その情報を電子メールによりタイムリーに配信するサービスである。
- d 医薬品医療機器情報配信サービス（PMDA メディナビ）の利用は、医薬関係者に限られる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

【問 1 0 9】 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 薬局開設者は、医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生を知った際、その医薬品と健康被害の因果関係が明確であり危害発生の防止のために必要であると認めた場合に限って、その旨を厚生労働大臣に報告しなければならない。
- b 登録販売者は、医薬品の副作用等によるものと疑われる健康被害の発生について、報告を行う医薬関係者として位置づけられている。
- c 世界保健機関（WHO）加盟国の一員として、わが国が対応した安全対策に係る制度の一つである。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	正	正	正
5	誤	正	誤

【問 1 1 0】 医薬品・医療機器等安全性情報報告制度に関する次の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 報告様式の記入欄すべてに記入がなされる必要はなく、購入者等（健康被害を生じた本人に限らない）から把握可能な範囲で報告がなされればよい。
- b 医薬部外品や化粧品の使用によるものと疑われる健康被害についても、自発的な報告が求められている。
- c 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害についても、報告する必要がある。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	誤	誤	正
3	正	誤	正
4	正	正	誤
5	正	正	正

【問 1 1 1】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 救済給付業務に必要な費用のうち、給付費については、製造販売業者から年度ごとに納付される拠出金が充てられる。
- b 給付の種類としては、医療費、障害年金、遺族年金、葬祭料等がある。
- c 医薬品を適正に使用して生じた健康被害であれば、特に医療機関での治療を要せずに寛解したような軽度のものについても給付対象となる。
- d 個人輸入した医薬品の使用による健康被害についても、医薬品副作用被害救済制度の対象となる。

1 (a、b)	2 (a、d)	3 (b、c)	4 (b、d)	5 (c、d)
---------	---------	---------	---------	---------

【問 1 1 2】 次のうち、適正に使用した場合に医薬品副作用被害救済制度の対象となる医薬品はどれか。

- 1 一般用検査薬
- 2 人体に直接使用する殺菌消毒剤
- 3 殺虫剤
- 4 日本薬局方ワセリン

【問 1 1 3】 次のうち、一般用医薬品の添付文書において、糖尿病の診断を受けた人は、服用する前に、専門家に相談するよう記載される成分はどれか。

- 1 ロートエキス
- 2 スコポラミン臭化水素酸塩水和物
- 3 フェニレフリン塩酸塩
- 4 硫酸ナトリウム
- 5 イブプロフェン

【問 1 1 4】 次のうち、一般用医薬品の添付文書において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目欄に、「鶏卵によりアレルギー症状を起こしたことがある人」と記載される成分はどれか。

- 1 リドカイン塩酸塩
- 2 リゾチーム塩酸塩
- 3 ロペラミド塩酸塩
- 4 ジフェンヒドラミン塩酸塩
- 5 メチルエフェドリン塩酸塩

【問 1 1 5】 次のうち、一般用医薬品の添付文書において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目欄に、「15歳未満の小児」と記載される成分はどれか。

- 1 無水カフェイン
- 2 ジヒドロコデインリン酸塩
- 3 アセトアミノフェン
- 4 アスピリン

【問 1 1 6】 次のうち、添付文書の使用上の注意において、服用後、乗物または機械類の運転操作をしないことの旨が記載されている一般用医薬品として正しいものの組み合わせはどれか。

- a テオフィリンを含む鎮咳去痰薬
- b ジフェンヒドラミン塩酸塩を含むかぜ薬
- c アルジオキサを含む胃腸薬
- d スコポラミン臭化水素酸塩水和物を含む乗物酔い防止薬

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 1 1 7】 次の記述のうち、スクラルファートを含有する胃腸薬の添付文書の使用上の注意に、長期連用しないことの旨が記載される理由として、正しいものはどれか。

- 1 アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を生じるおそれがあるため。
- 2 鬱血性心不全、心室頻拍の副作用が現れることがあるため。
- 3 副腎皮質の機能低下を生じるおそれがあるため。
- 4 偽アルドステロン症を生じるおそれがあるため。
- 5 喘息発作を誘発するおそれがあるため。

【問 1 1 8】 次のうち、一般用医薬品の添付文書において、緑内障の診断を受けた者は、服用する前に、専門家に相談するよう記載される成分の正しい組み合わせはどれか。

- a ケイ酸アルミン酸マグネシウム
- b ペントキシベリンクエン酸塩
- c ジフェニドール塩酸塩
- d テシットデシチン

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 1 1 9】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、特定の症状がある人が服用しようとする場合に、専門家に相談するよう注意が求められている成分との組み合わせについて、正しいものはどれか。

特定の症状		成分
1 胃酸過多	－	グリセリン
2 けいれん	－	ケトプロフェン
3 出血傾向	－	ポビドンヨード
4 排尿困難	－	クロルフェニラミンマレイン酸塩
5 むくみ	－	タンニン酸アルブミン

【問 1 2 0】 次のうち、一般用医薬品の添付文書の使用上の注意において、吸収増大による精神神経系障害が生じるおそれがあることから、服用前後は飲酒しないことの旨が記載される成分はどれか。

- 1 テオフィリン
- 2 ヒマシ油
- 3 次硝酸ビスマス
- 4 合成ヒドロタルサイト
- 5 ピレンゼピン塩酸塩